**ウルグアイ内政・外交（2014年6月）**

1. 内政
   1. 政府，議会の動向
      1. 1日，大統領選挙予備選挙が実施された。事前の予想通りFAではバスケス候補が，コロラド党ではボルダベリー候補が圧勝した。他方国民党では当初の予測と異なりラカジェ・ポウ候補が逆転勝利した。
      2. ５日，当地主要各紙は，選挙裁判所が公表した開票率１００％の時点での選挙結果を大要次の通り報じた。

投票率：３７.０８％（有権者数２,６６８,７７５人，総投票数９８９,７１０）

主要候補得票数および得票率：

FA

タバレ・バスケス候補　　　　　　　　　　２４４,０６０票（８１.９％）

コンスタンサ・モレイラ候補　　　　　　　　５３,０９３票（１７.８％）

国民党

ルイス・アルベルト・ラカジェ・ポウ候補　２２２,１４７票（５４.３％）

ホルヘ・ララニャガ候補　　　　　　　　　　 １８５,７０３票（４５.４％）

コロラド党

ペドロ・ボルダベリー候補　　　　　　　　１０１,７４４票（７４.０％）

ホセ・アモリン・バジェ候補　　　　　　　 ３５,０６１票（２５.５％）

政党別得票数および得票率：

FA　　　　　 ２９７,８５６票（３１.１％）

国民党　　　４０８,９６３票（４１.３％）

コロラド党 １３７,４５２票（１３.９％）

ウ　１３日、「ウルグアイ・ベトナム科学技術協力に関する法律第１９２１８号」が公布

された。

エ　２３日、国会審議中の「オーディオビジュアル通信サービス法」（通称メディア法）

につき与党FAの派閥セレグニ戦線（FLS）は条文の検討に更に一週間をかける

よう要請した。

* 1. 与党FAの動向

１５日、FAは党内で副大統領候補選挙を実施、ラウル・センディック前ANCAP総裁

が選出された。

* 1. 野党の動向

ア　１２日、ホルヘ・ララニャガ上院議員はラカジェ・ポウ大統領候補と会談。会談の

結果、ララニャガ上院議員を国民党副大統領候補とすることが決定された。

イ　２９日、ペドロ・ボルダベリー上院議員は報道に対し、コロラド党の副大統領候補

は近日中に決定されるであろうと述べた。

* 1. 労働関係
     1. １８日，全国労働総同盟（PIT-CNT）は２０１４年下半期の行動計画を策定、加盟労組に対し、刑事罰適用年齢の引き下げに反対するよう要請した。
     2. ２０日、PIT-CNT事務局はアルマグロ外相と会合し、アルゼンチンとの通商関係及び右関係が労働市場へ与える影響につき話し合った。

　　 （５）その他

ア　１１日、アルティガス将軍生誕２５０周年を記念し、カネロネス県サウセにアルテ

ィガス将軍歴史博物館が開館。開館式にはムヒカ大統領も出席した。

イ　２７日、１９７３年の軍事クーデターから４１周年を迎え、各地で研究・記念集会が

開催された。

1. 外交
   1. 要人往来

ア　アルマグロ外相の米州機構会合出席

３日，アルマグロ外相はパラグアイ・アスンシオンにおいて開催された第４４回米

州機構通常会合に出席し、「社会的包摂を伴う発展」（Desarrollo con Inclusion

Social）につき演説した。

イ　アストリ副大統領の訪露

６日より１１日まで，アストリ副大統領は露サンクト・ペテルブルク市及びモスクワ

を公式訪問、ワレンチナ・マトヴィエンコ連邦院（上院）議長らと会談し、二国間の

経済及び文化関係の強化、露・メルコスール関係等につき話し合った。

ウ　ムヒカ大統領のG７７＋中国臨時首脳会合出席

１４～１５日，ムヒカ大統領はボリビア・サンタクルスにて開催されたG７７＋中国

臨時首脳会合に出席、今次会合のテーマである「良く生きる（vivir bien）ための

新たな世界秩序」につき、大量消費生活を批判する演説を行った。

エ　グアテマラ外相の来訪

２日，カレラ・グアテマラ外相が当国を訪問し，二国間関係、メルコスールと中米

統合機構（SICA）関係及び多国間関係等幅広いテーマにつきアルマグロ外相と

会談した。

（２）シリア問題

６日，アルマグロ外相はシリア紛争につき潘基文国連事務総長宛に書簡を送付，

書簡中で紛争犠牲者へ人道支援が確実に届くよう国際社会が最大限の努力を払う

必要があると述べた。

　　　（３）メルコスール

９日，当地メルコスール本部にてメルコスール議会第１３回臨時会合が実施された。右会合では，ウルグアイ政府深水港省庁間委員会よりロチャ県深水港建設計画につき説明が行われた。ムヒカ大統領も出席し演説した

　　　（４）UPMセルロース工場問題

１２日，UPMセルロース工場の年間生産量引き上げが認可された。右決定につきアルゼンチン政府は１３日，二国間関係を見直すと発表し，またハーグ国際司法裁判所に本件を再提訴する予定であると発表した。

（５）国際機関関係

* + 1. ４日，ウルグアイ政府は「鉱山における安全及び健康に関する国際労働機関（ILO）第１７６号条約」（１９９５年採択）を批准した。
    2. ４日，李勇（Li Yong）国連工業開発機関（UNIDO）事務局長が来訪し，クレイメルマン工業エネルギー鉱業大臣と当国のエネルギー計画，港湾等につき会談した。

1. 社会

（１）治安関係

ア　犯罪凶悪化について，最近１０日間で発生した２件の事件に関する裁判所の関

連ファイルから，犯人らが犯行時に容赦なく発砲し，警察に追跡された際にもた

とえ警察官であろうと同様に発砲していることが確認されている。なお，警察幹

部によると，警察官への発砲は１年半前ごろから始まり，主に追跡時又は麻薬

使用時である。また，検事によると，最近 犯罪者による警察官への不服従が目

立ち，警察官も発砲することで，一般人を巻き添えにしたり，犯人を負傷させたり

することで刑事責任を問われる（特に背後から発砲した場合等）ことを恐れて，

発砲できない状況にあることを指摘している。

イ　司法や警察関係者によると，少年犯罪における銃の使用が増加している。背景

には，どんな武器を使用しても少年法で保護されていることや，最近の商店経営

者による銃器の正当な所持の増加等を受けて，「撃たれる前に撃つ」という，銃は

使用するためにあるといった意識が蔓延している。

ウ　司法官憲における監視カメラの録画画像の有効性について，警察と司法関係者

との間で見解の相違が確認されている。ボノミ内相は同画像を証拠材料として参考にする判事と，そうでない判事が居ることを批判。

エ　旧市街，セントロ及びコルドン地区には約３００台の監視カメラが設置されており，

２４時間警察によって監視されている。

　　（２）社会

ア　１２日、ウルグアイ化学薬学協会は、非医療用向精神目的大麻の薬局での販売許可を撤回するよう政府に求める署名キャンペーンを開始した。

イ　２４日、当地主要紙は、ウルグアイ大麻研究協会（AECU）が大麻規制管理法にもとづき、会員制クラブとしての登録を教育文化省に対し申請したと報じた。

(了)